



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「大川木工まつりを例とした大規模イベントの集客効果の計測」へのコメント
Author(s)	岡本, 健
Description	日本地域学会第48回(2011年)年次大会. 2011年10月8日(土)-10日(月). 和歌山大学. 発表者: 齋藤参郎・蔡 傑・山城興介・岩見昌邦・今西 衛 (福岡大学)
Relation	日本地域学会第48回(2011年)年次大会. 2011年10月10日(月). 和歌山大学.
Issue Date	2011-10-10
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/47262">https://hdl.handle.net/2115/47262</a>
Type	conference presentation
File Information	nihonchiikigakkai.pdf



# 「大川木工まつりを例とした大規模 イベントの集客効果の計測」 へのコメント

2011. 10. 10

日本地域学会

第48回(2011年)年次大会

於：和歌山大学

【発表者】

福岡大学

齋藤参郎・蔡 傑・山城興介

岩見昌邦・今西 衛

北海道大学大学院  
国際広報メディア・観光学院  
観光創造専攻 博士後期課程

東京成徳大学  
人文学部 観光文化学科  
非常勤講師

大阪観光大学 客員研究員

岡本 健

1. 本研究の観光研究における意義

2. 質問1 今回の論文について

3. 質問2 今後の展開について

# 本研究の観光研究における意義

①観光研究は、重要な分野であるとされながら、観光統計などの整備がなかなか進んでいない。

その中で、「大川木エまつり」にて、アンケート調査を実施し、ローデータを取り、丁寧に整理を行っている点。

②現在、様々な学会で、観光研究が行われている。

観光、という現象については、文化・社会的な要素や環境に関する要素、心理、コミュニケーション的な要素など、様々な要素が関わってくる。

そのため、変数を定めたり、量的な研究が難しい。その中で本研究は意欲的な挑戦と言える。

# 質問1 今回の論文について

- ①「大川木工まつり目的で来た人」  
→「大川木工まつりのみを目的として来た人」や  
「大川木工まつりを主な目的として来た人」の方が  
正確では？
- ②2つのイベントは性質が異なると言っているが、  
説明なしにデータを統合しても問題無いかどうか
- ③購入したかどうか、については、どの段階でアンケート調査に回答したかによっては事実を反映していない可能性がある。

# 質問1 今回の論文について

④CMの本数を変数に入れているが、来場者がどのようなメディアを情報源としているのかは実証データがあるかどうか

⑤理論的背景、研究の位置づけはどのようなのか

## 質問2 今後の展開について

①満足度を上げることが、果たして目的にかなうのか。リピーターを増やすためには、ある種の満足は与えつつ、ある種の不満を残すことが求められるのではないか。

②個人のブログ、ホームページ、twitterやFacebookなどのマイクロブログなど、CGM的な情報発信が集客にどの程度効果があるか、ということは計測できるか。それをやっていく予定はあるか。